

1560年鑄物屋として創業

～時流に合わせ、カスタマイズしたものづくりを進める～



岡本・ナベヤグループ

代表取締役社長

岡本 知彦氏

住 所：岐阜県岐阜市若杉町25

T E L：058-271-6301

F A X：058-278-6102

U R L：http://www.nabeya.co.jp/

事業内容：

鑄造製品製造販売、上下水道管路用機材製造販売、工作機械用標準治具製造販売、液晶・半導体設備機器用防振機器製造販売、液晶・半導体設備機器用特殊防錆処理、住宅設備機器・家庭用機器卸売業・建築業、アルミエクステリア製品製造販売業、航空部品 / 航空機製造設備治工具製造・レーザー測定事業

従業員数：443人

■ 新製品の製造・販売、M & Aを進める

聞き手：御社の歴史と企業発展における転換期についてお聞かせください。

岡本社長：岐阜市は現在、織田信長が岐阜に入城し、岐阜と命名してから450年を迎え、「信長公450プロジェクト」を進めていますが、その7年前の1560年に鑄物屋として創業しました。当時、古文書に「鑄物師」という称号があり、朝廷からそれぞれの土地で鑄物師の免状をもらい、鑄物屋を開くことが認められました。江戸時代までは、鉄や銅合金を溶かして作る鍋や釣鐘などを多く扱いましたが、江戸時代の後期からは火消しの仕事も手伝うようになり、商業にも関わりを持つようになりました。明治終わりから昭和初期にかけては、地域の電力会社やガス会社、鉄道会社、銀行などの設立にも深く関わってきました。鉄に関わる資材を使っていたこともあり、本業の傍ら、商業や建築資材などインフラビジネスにも関わり出しました。1923年には(株)鍋屋鑄造所と称し株式会社化しました。1940年代に入ると、第二次世界大戦が勃発し、軍事工場として手榴弾の筐体や武器を作るための工作機械の鑄物を作っていました。1950年以降は、戦後復興の工業化として、社会インフラの整備に携わり、バイス(万力)の生産を開始したり、上水道用商品や下水鉄蓋、治具製品などを手掛けたり、日本経済の発展に絡む鑄物製品を製造・販売してきました。弊社は、社歴が長いので、時代の転換期において、その時々でさまざまな取り組みをしてきましたが、第二次世界大戦後や、バブルが崩壊した時などには、新しい製品や事業を展開して切り抜けてきました。また、この10年間はM & Aを行い、事業を

広げました。

■ お客様目線の価値を創造する

聞き手：事業内容についてお聞かせください。

岡本社長：現在、岡本・ナベヤグループは、岡本、ナベヤを中核に、ナベヤ精機、サンアイ岡本、マイクロデント、ナベヤトレーディング、ナベヤ製作所の7事業会社があり、それぞれが独立しています。鑄造製品、上下水道管路用機材、工作機械用標準治具の製造販売をはじめ、液晶・半導体設備機器用防振機器、住宅設備機器の卸売りや住宅リフォーム、航空部品、航空機製造設備治具製造など多岐に渡っています。中には、耐震性と高寿命化の観点からメンテナンスフリーの製品も製造しています。また、(株)岡本ではデザイン性を生かした質感の高い照明器具であるガス灯や暖炉などの商品があり、最近発売した薪ストーブの新品「アグニ ヒュッテ」は平成28年度のグッドデザイン賞を受賞しました。(株)ナベヤでは工作機械用治具を販売しております。高精度治具製品では自動化対応、コスト削減、工程集約等効率的に工作機械を使うための製品を手掛けています。

聞き手：経営理念と会社方針についてもご紹介をお願いします。

岡本社長：経営理念は「価値創造」「堅実経営」「時流適応」の3つを掲げています。価値創造は、お客様にとっては価値のある製品やサービスを提供すること、下請けの部品

